

ウェルカムセンターガイドブック

♣♣ 狩場の丘 ♣♣

自然・生きものの ガイドブック

／ 遊びに
おいてよ！



横浜市環境創造局
環境活動支援センター

もくじ

はじめに
狩場の丘の特徴とガイドブックの目的…………… 3
環境活動支援センターについて…………… 3
ガイドブックの使い方…………… 3
ウェルカムセンターについて…………… 4
ウェルカムセンターの場所…………… 5
フィールドマナー～安心・安全に使うために～…………… 5

第1章 昆虫

狩場の丘のアゲハチョウ…………… 6
狩場の丘のトンボ…………… 8
狩場の丘のコガネムシ…………… 10
狩場の丘のバッタ…………… 12
狩場の丘のキリギリス…………… 14

コラム1 本当は身近な生物多様性…………… 16

第2章 鳥

狩場の丘の観察ポイント…………… 18
狩場の丘で見られる主な鳥…………… 19

コラム2 狩場の丘 池の中のミクロの世界…………… 22

コラム3 狩場の丘のユーカリ…………… 23

第3章 植物

横浜の森のなりたち…………… 24
狩場の丘のおすすめ草花…………… 25
狩場の丘のおすすめ樹木…………… 29

コラム4 木へんに春と書いて“椿”…………… 34

コラム5 小さな植物 スミレについて…………… 35



「横浜みどりアップ計画」(計画期間:平成26-30年度)は、「みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜」を目指す計画です。
この計画は「市民とともに次世代につなぐ森を育む」、「市民が身近に農を感じる場をつくる」、「市民が実感できる緑をつくる」の3つの柱と、「効果的な広報の展開」に、市民や事業者の皆様と連携しながら取り組んでいくものです。

はじめに

狩場の丘の特徴とガイドブックの目的

狩場の丘は、横浜の中央部に位置する市内でも有数な緑豊かな場所です。環境活動支援センターを中心に、こども植物園、児童遊園地などから構成されています。植物園があることから、緑を形成する植物は各地から集められた草木が多く、横浜の森の中でも他の緑地とは異なった自然環境となっています。

本ガイドブックは、狩場の丘で見られる身近な生き物を紹介し、四季折々の自然を感じてもらうことを目的としています。

環境活動支援センターについて

環境活動支援センターは、昭和43年に農業指導所として横浜市児童遊園地の一面に設置されました。開設当時は「緑化センター」、続いて「農と緑のふれあいセンター」「環境活動支援センター」と名称を変更し現在に至ります。現在の役割は、市民を対象とした樹林地や農地を守る人材育成事業のほか、市民が四季折々の自然を感じる場となるよう様々な工夫と、安心して利用できるよう管理を行っています。本館1階のウェルカムセンターは、市民のみなさまにご利用いただけます。

ガイドブックの使い方

このガイドブックは、狩場の丘で昆虫、鳥、植物を観察するにあたり、役立つ情報を掲載しています。第1章では、よく見られる昆虫について紹介しました。できるだけ簡単に見分けられるよう、似ている種をまとめて掲載し、見分け方のポイントを図示して比較しています。

第2章では、よく見られる鳥について紹介しました。観察のヒントになるよう、見られる場所なども紹介しています。

第3章では四季折々に見られるおすすめの植物を掲載しました。植物の形態とともに観察できる場所も記しました。狩場の丘の特徴から人為的に植栽された植物も紹介しています。

また本書は携帯に便利なA5サイズ印刷できるよう設定されています。ぜひフィールドで役立てください。

本書は、横浜市、及び環境活動支援センターのホームページにアクセスすると、必要な箇所だけ印刷することもできます。ただし、本書に掲載されている内容を使用する場合は、必ず出典を明記していただけますようお願いいたします。



🍃 ウェルカムセンターについて

ウェルカムセンターは市内5か所に設置されていますが、このウェルカムセンターでは、狩場の丘で見られる生き物情報の提供や、昆虫や野草などみどりに関するイベントを定期的に開催し、森にかかわるきっかけづくりを行っています。

開館時間

9時～17時 ※年中無休・年末年始は除く
土日祝日は、スタッフが常駐しています。

トイレ

車いす・オストメイトに対応しています。

ウェルカムセンターをのぞいてみよう! 何があるかな。

間伐材を利用した楽器で音を出してみたり、昆虫や植物など生き物の詳細部の理解につながるぬり絵をしてみたり、子どもも楽しめる場所です。



室内の真ん中にある丸テーブルでは、昆虫等のぬり絵のほか、旬の自然情報やイベント情報などみどりに関する情報を多数提供しています。

植物や昆虫の図鑑、森づくりや環境に関する本などが充実している図書コーナーがあります。



狩場の丘で採集されたチョウ、トンボ、コガネムシなど400種を超える標本が展示してあります。



散歩に便利な「かりばのおかわくわくマップ」を配布しています。

🍃 ウェルカムセンターの場所

JR横浜駅、保土ヶ谷駅、東戸塚駅、戸塚駅、井土ヶ谷駅、蒔田駅からバスのアクセスのほか、駐車場も完備しています。

アクセスMAP

お車でお越しの方
 児童遊園地有料駐車場をご利用ください。50台(30分100円、以降30分100円)

バスでお越しの方

相鉄線西横浜駅 (バス停 水道道) → 保土ヶ谷駅東口 (バス停 ティナル) → 児童遊園地入口 (下車 徒歩10分) → 環境活動支援センター → 児童遊園地前 (下車 徒歩10分) → JR東戸塚駅東口 (バス停 ティナル) → JR戸塚駅東口 (バス停 ティナル) → 京急井土ヶ谷駅前 (バス停 井土ヶ谷駅前) → 地下鉄蒔田駅前 (バス停 蒔田駅前) → JR関内駅北口 (バス停 羽衣町)

🍃 フィールドマナー ～安心・安全に使うために～

安全で楽しくお使いいただくために、フィールドでは以下のことを気をつけてご利用ください。

みんなが気持ちよく使える場所にしましょう!

気をつけてほしい生きもの

- ハチが近くにきたら、速くへいへいまでじっとしてしまいましょう。
- へびは草むらや石垣の中にいることが多いので、気をつけましょう。



狩場の丘のアゲハチョウ

狩場の丘には美しいアゲハチョウの仲間が飛び交います。なかにはよく似た種も生息しています。狩場の丘でよく見られるアゲハチョウの見分け方を紹介します。



アゲハとキアゲハの見分け方

アゲハ ★65~90mm

時期▶ 4~10月まで

特徴▶ 身近なチョウの代表種。
幼虫はかんぎつ類の葉を食べる。

うすい黄色

ぜんし
前翅の付け根がスジ状

はね
翅のもようもそれぞれ
ちがいがあんだね



ぜんし
前翅の付け根が黒

キアゲハ ★70~85mm

時期▶ 4~10月まで

特徴▶ アゲハによく似ている。
幼虫はセリの仲間の葉を食べる。

アゲハに比べて黄色が濃い

狩場の丘の黒系アゲハの見分け方

クロアゲハ ★80~110mm

時期▶ 4~10月まで

特徴▶ 林に生息するアゲハ。
幼虫はサンショウの葉などを食べる。

こうしぜんえん
オスの後翅前縁に
白い斑紋がある

びじょうとつき
尾状突起は短い

ジャコウアゲハ ★70~95mm

時期▶ 5~10月まで

特徴▶ 翅が細長い。
幼虫はオオバウマノズクサの葉を食べる。

びじょうとつき
尾状突起は
細長い

こうはくはん
大きな黄白斑がある

ナガサキアゲハ ★90~120mm

時期▶ 5~11月まで

特徴▶ 南方系のチョウ。
幼虫はかんぎつ類の葉を食べる。

きんぞくこうたく
金属光沢がある
みどり
緑色

あんしよくぶ
暗色部がある

モンキアゲハ ★90~110mm

時期▶ 4~10月まで

特徴▶ はっきりとしたチョウ道をもつ。
幼虫はかんぎつ類の葉を食べる。

びじょうとつき
尾状突起は
ない

カラスアゲハ ★75~100mm

時期▶ 4~11月まで

特徴▶ 吸水によくおとずれる。
幼虫はカラスザンショウの葉などを食べる。

狩場の丘のトンボ

狩場の丘にはたくさんのトンボが生息しています。
なかにはよく似た種も生息しています。
狩場の丘でよく見られるトンボの見分け方を紹介します。



ギンヤンマ(オス)とクロスジギンヤンマ(オス)の見分け方

ギンヤンマ ★70~80mm

時期 ▶ 6~11月まで

特徴 ▶ 明るく開放的な池に生息。

秋に多くの個体が見られる。



クロスジギンヤンマ ★65~85mm

時期 ▶ 4~9月まで

特徴 ▶ やや閉鎖的な池に生息。春を中心に出現する。



アジアイトトンボ(オス)とクロイトトンボ(オス)の見分け方



アジアイトトンボ ★25~35mm

時期 ▶ 4~11月まで

特徴 ▶ 緑色の小さなイトトンボ。腹部第9節目が青い。



クロイトトンボ ★30~35mm

時期 ▶ 4~10月まで

特徴 ▶ 黒味の強いイトトンボ。水草の上にとまっている。

ショウジョウトンボ(オス)とネキトンボ(オス)の見分け方



ショウジョウトンボ ★40~55mm

時期 ▶ 4~10月まで

特徴 ▶ 鮮やかな赤色をしたトンボ。盛夏を中心に出現する。



ネキトンボ ★40~45mm

時期 ▶ 5~11月まで

特徴 ▶ 全身が赤色になるアカトンボ。秋に数を増やす。

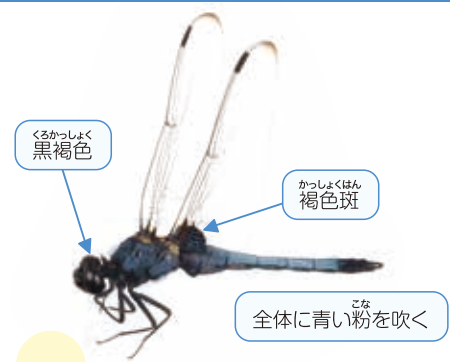
シオカラトンボ(オス)とオオシオカラトンボ(オス)の見分け方



シオカラトンボ ★45~60mm

時期 ▶ 4~11月まで

特徴 ▶ 明るい水辺や草原で見られる。



オオシオカラトンボ ★50~60mm

時期 ▶ 5~10月まで

特徴 ▶ やや暗い水辺で見られる。

狩場の丘のコガネムシ

狩場の丘にはコガネムシの仲間が多く生息しています。子供たちに大人気のカブトムシ以外にも特徴のあるコガネムシの仲間がたくさん生息しています。狩場の丘でよく見られるコガネムシ科を紹介しします。



樹液に集まるコガネムシ

カブトムシ ★35~55mm

時期▶ 6~9月まで

特徴▶ いわずと知れた雑木林の王者。樹液が染み出るクヌギやコナラで見られる。



カナブン ★25~30mm

時期▶ 6~8月まで

特徴▶ 体色は金属光沢がある茶褐色や緑黄色など様々。日中に樹液に集まる。



クロカナブン ★25~30mm

時期▶ 7~9月まで

特徴▶ つやのある黒色。カナブンよりも遅れて出現する。数はカナブンより少ない。



花や葉の上などで見られるコガネムシ

とうぶせんえん
頭部前縁
中央が凹む



シロテンハナムグリ ★20~25mm

時期▶ 5~9月まで

特徴▶ 金属光沢がある緑銅色で、まばらな白色斑がある。様々な花に集まる。



コアオハナムグリ ★10~15mm

時期▶ 4~10月まで

特徴▶ 毛深く濃い緑色をしたハナムグリ。キク科などの花に集まる。夏に一時的に少なくなる。

へんじょうせつ
片状節が
長い



コフキコガネ ★25~30mm

時期▶ 6~9月まで

特徴▶ 全身褐色で短毛に覆われている。オスの触角片状節は長く発達している。



アオドウガネ ★20~25mm

時期▶ 6~9月まで

特徴▶ 鈍い金属光沢がある緑色で様々な植物の葉を食べる。ライトトラップにも多く飛来する。



コカブトムシ ★20~25mm

時期▶ 6~11月まで

特徴▶ 肉食性が強いことが知られている。狩場の丘ではクヌギでまれに見られる。



マメコガネ ★10~13mm

時期▶ 5~9月まで

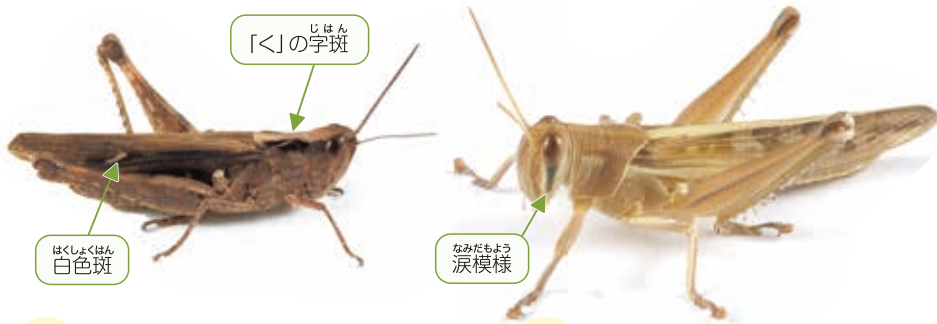
特徴▶ 金属光沢がある緑色で翅の一部が赤褐色をしている。マメ科植物の葉を食べる。

狩場の丘のバッタ

狩場の丘には草地がたくさんあります。そこには様々なバッタが生息しています。特徴のある狩場の丘のバッタの仲間の見分け方を紹介します。



草地でよく見られるバッタ



ヒナバッタ ★20~30mm

時期▶ 4~12月まで
特徴▶ 明るい草地に広く生息する。
オスは「シュルシュルシュル…」と弱々しく鳴く。

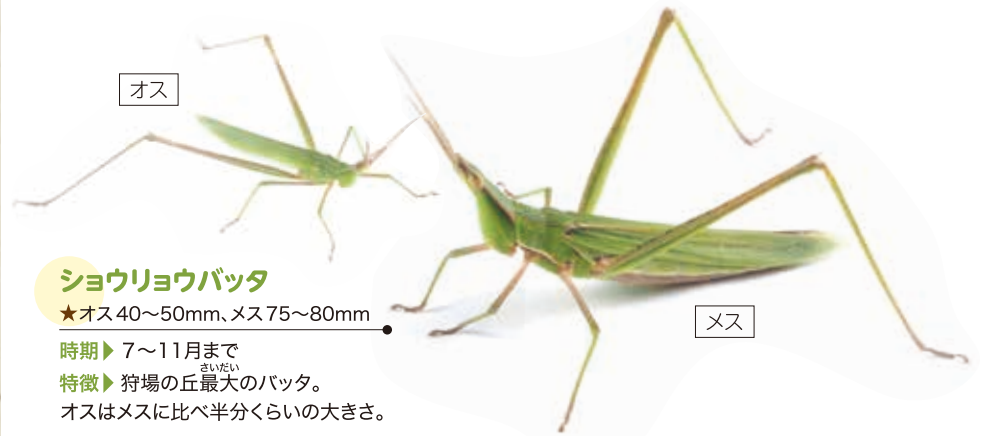
ツチイナゴ ★50~70mm

時期▶ 3~11月まで
特徴▶ 成虫になると全身黄褐色になる
大型のバッタ。成虫で越冬する。



クルマバッタモドキ ★30~65mm

時期▶ 7~11月まで
特徴▶ 褐色のバッタだが、時折緑色型が出現する。
後翅を開くと黒とクリーム色の輪状の斑紋がある。



ショウリョウバッタ

★オス40~50mm、メス75~80mm
時期▶ 7~11月まで
特徴▶ 狩場の丘最大のバッタ。
オスはメスに比べ半分くらいの大きさ。



オンブバッタ ★20~45mm

時期▶ 6~11月まで
特徴▶ 草地に生息する。
交尾中のペアをよく見かける。

ショウリョウバッタモドキ

★30~55mm
時期▶ 7~11月まで
特徴▶ やや背の高い草地に生息する。体は柔らかく、イネ科の草に縦向きに静止していることが多い。



イボバッタ ★25~35mm

時期▶ 7~11月まで
特徴▶ 荒地や裸地を好む。狩場の丘では駐車場の石畳上などで見られる。

コバネイナゴ ★20~35mm

時期▶ 7~11月まで
特徴▶ 水辺の周辺や草地に生息する。
かつて食用にされていた。



狩場の丘のキリギリス

狩場の丘には夏から秋にかけて鳴くキリギリスの仲間が多く生息しています。バッタと異なり長い触角を持ち、翅に発音器があります。狩場の丘でよく見られるキリギリス科、ツユムシ科の見分け方を紹介します。



大型のキリギリス3種の見分け方

ヒガシキリギリス ★30~40mm

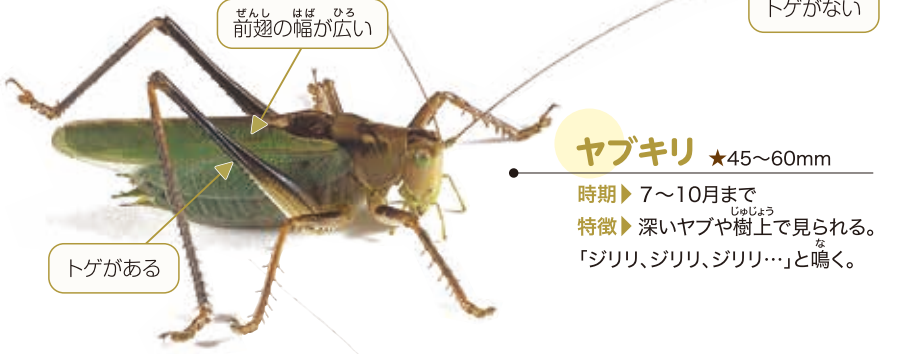
時期▶ 6~10月まで
特徴▶ 横浜では減少している大型のキリギリス。「ジーチョ」と昼にもよく鳴く。



ヤブキリ ★45~60mm

ヤブキリ ★45~60mm

時期▶ 7~10月まで
特徴▶ 深いヤブや樹上で見られる。「ジリリ、ジリリ、ジリリ…」と鳴く。



ハヤシノウマオイ ★45~50mm

時期▶ 6~10月まで
特徴▶ 夜の林縁で多く見られる。「スイーチョン」と鳴く。完全な肉食性。



頭が三角形のキリギリスの見分け方



クサキリ ★40~50mm

時期▶ 7~10月まで
特徴▶ 草地やマント群落に生息する。ほとんどが緑色型だが、時折褐色の個体が見られる。

クビキリギリス ★50~55mm

時期▶ 4~10月まで
特徴▶ 草地や畑などに生息する。春に畑で「ジー」と連続して鳴く。成虫で越冬する。

小型のキリギリスの見分け方



ササキリ ★20~25mm

時期▶ 7~11月まで
特徴▶ 林縁に生息する。「ジキジキ…」と昼に鳴く。

ホシササキリ ★20~30mm

時期▶ 7~11月まで
特徴▶ 背の低い草地に生息する。「シリリ…」と弱々しく鳴く。

ツユムシ科の見分け方

ツユムシの仲間もよく似ています。セスジツユムシのメスはヒメクダマキモドキとよく似ていて間違えやすいです。



セスジツユムシ ★35~45mm

時期▶ 6~11月まで
特徴▶ 林縁のマント群落に生息する。夜の狩場の丘ではササ原などで多く見られる。

ヒメクダマキモドキ ★35~40mm

時期▶ 8~11月まで
特徴▶ クズ原や樹上に生息する。クズの葉を食べているのを見かける。

本当は身近な生物多様性

生物多様性について身近なところから考える

地球上のすべての生物は様々なつながりを持ちながら存在しています。約38億年前に誕生した生命は、地球環境と生息場所に合わせてゆっくり進化してきました。進化の道のりの中、育まれてきた生物たちの相互のつながりが生物多様性なのです。

一方、15世紀中期の大航海時代以降、大陸間を結ぶ交通網は著しく発展し、人や物資が高速かつ大量に運ばれるようになりました。これに伴い、元来備わっている能力を超えた距離を生物が移動する機会が生じました。人を介して外から移動してきた生物は、一般的に「外来生物」と言われます。本来生息していない生物が侵入すると、その場所の生態系バランスが崩れることがあります。

生物多様性を考える時、地球規模から身近な環境まで、幅広い視点を持つ必要があります。本コラムでは、身近なところから生物多様性について考えるきっかけとして、狩場の丘の外来種問題を取り上げました。

外来昆虫類から考える生物多様性

狩場の丘には数多くの外来生物が生息しています。クリハラリス(タイワンリス)、アメリカザリガニ、ミシシッピアカミミガメ、ブルーギル…数えるときりがありません。

昆虫の世界に目を向けてみても、驚くほど多くの外来昆虫類が生息しています。これらが、元から生息していた昆虫に様々な影響を与えていることが懸念されています。生息環境やエサの奪い合いは、狩場の丘の昆虫にとって、きわめて深刻な問題です。長い年月をかけて育まれてきた狩場の丘の多様性が失われないようみんなで考えていきたいものです。

狩場の丘 主な外来昆虫類

アカボシゴマダラ名義タイプ亜種



中国原産のチョウで、外来生物法で要注意外来生物に指定されています。幼虫はエノキの葉を食べるため、ゴマダラチョウなどの在来種との競合が心配されています。

ヨコヅナサシガメ



中国やインド原産のカメムシです。狩場の丘ではサクラの木の洞に群れを見ることが出来ます。肉食性で様々な昆虫を摂食します。在来種への捕食圧が心配されています。

ラミーカミキリ



中国原産で、カラムシ類に随伴して移入したといわれています。狩場の丘ではフラスズメの幼虫などイラクサ科草本を利用する在来昆虫との競合が心配されています。

マツヘリカメムシ



北米原産で、近年国内に移入した種です。マツの害虫として知られています。狩場の丘でも数を増やしています。同所に生息する昆虫類との競合が心配されています。

ミナミトゲヘリカメムシ



本来南西諸島に生息していた国内外来種です。北上し近年狩場の丘でも見られるようになりました。クスノキや柑橘類を吸汁します。生態系だけでなく農作物への被害も心配されています。

アオマツムシ



原産地不明ですが明治時代に移入しました。狩場の丘で、普通にその声を聴くことができます。「リーリーー…」といったところから大合唱が聴かれます。果物への被害も報告されています。

タイワントビナナフシ



園芸植物などに随伴して移入してきた国内外来種です。狩場の丘でもマント群落で数多く見られます。フジなどを食べるため、それらを食べる種との競合が心配されています。

ムラサキツバメ



幼虫時代マテバシイ属の葉だけを食べるので、本来近畿地方までしか生息できませんでした。しかし、マテバシイの移植に伴い分布を広め、狩場の丘では普通に見られるチョウになりました。

狩場の丘の観察ポイント

狩場の丘では一年を通じて鳥が見られます。どんな場所にどんな鳥がいるか観察してみましょう。じっくり探すとエサを食べている姿もみられます。

📍 開けた場所

小広場や芝生広場でツグミやムクドリが歩いています。ハクセキレイは駐車場等でもよく見られます。

📍 木の梢

雑木林でアオゲラやコゲラが虫を探します。シジュウカラ、ヤマガラ、エナガは木の梢でさえずります。

ポイントを参考に探してみよう!



📍 林縁や薄暗い林やヤブの中

ヤブの中からウグイスのさえずりが聞こえます。シジュウカラ、アオジ、クロジ、ジョウビタキ、シロハラ、アカハラが林床でエサを探します。

📍 水の上

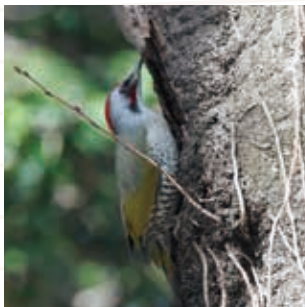
池の中でカルガモが泳ぎます。カワセミは水の上の枝から魚を探します。コサギ、アオサギなどが訪れることもあります。

📍 花や実のついた木

花が咲いたツバキやウメで、ヒヨドリやメジロが蜜を吸います。ヒヨドリは木の実にも群がります。



虫を食べるアオジ



幹の中の虫を探すアオゲラ



ピラカンサの実を食べるヒヨドリ

狩場の丘で見られる主な鳥



シジュウカラ

胸のネクタイが特徴。太いのがオス、細いのがメスです。植物園の巣箱で子育てをしています。木の枝にとまっていたり、葉っぱをどけながら地面をつついていたり、いろいろなところで見られます。



コゲラ

小型のキツツキです。背中中の縞模様が目立ちます。木の枝をつつく音が聞こえることもあります。ほかの鳥と違って、木の枝をたて移動します。木の幹をくりぬいたキツツキの巣も、狩場の丘で見つかっています。



ウグイス

春先に鳴く練習をしています。草や木の茂っているところにいることが多く、体の色も褐色で目立たないため、声は聞こえてもなかなか姿はみられません。



メジロ

ウグイスとよく間違われるウグイス色の小さな鳥です。目の周りが白く花の蜜が大好きです。春先に梅や椿の蜜を吸う姿が観察できます。木の枝にクモの糸で土台をつくり、きれいなお椀型の巣で子育てします。



エナガ

尾が長く、全体にふわふわした感じの小さな鳥です。集団でさえずりながら元気に飛びまわっています。地衣類を使った円形のきれいなエナガの巣も、園内で見つかりました。



ヤマガラ

腹のオレンジ色が目立ちます。ヤマガラも植物園の巣箱で子育てをします。シジュウカラと同じようにツツピー、ツツピーとさえずりますが、ヤマガラのほうがゆったりしているようです。



ハクセキレイ

開けたところが好きで、長いシっぽを上下に動かしながら駐車場や芝生広場、コンクリートの地面を歩いています。体の白と黒の割合は季節や個体によって違います。弧を描いて飛びます。



ツグミ

狩場の丘には冬の初めにやってきます。草原を歩いて立ち止まると姿勢を正すので、シルエットでも分かります。春まで小広場や芝生広場や雑木林の林床で観察できます。



ヒヨドリ

ヒヨドリも中型の鳥です。日本ではよく見られますが、世界的には珍しい鳥です。食いしん坊で木の実や花の蜜がだいすき。ヒーヨ、ヒーヨと弧を描いて飛び、集団で食べに来ます。



ムクドリ

くちばしと足のオレンジ色がめだつ中型の鳥です。集団で木の枝や電線にとまったり、草原でエサをさがしたりしています。ときどき大きな群れになってびっくりすることがあります。



カワセミ

児童遊園地の池の水の中の枝にとまって、水中の魚をさがしている鳥です。見つけるとダイブして長いクチバシ魚を取り、枝などに打ち付けて食べます。



カルガモ

児童遊園地の池でのんびり泳いでいる水鳥です。数羽でエサをさがす姿が、ほぼ一年中見られます。水から上がるとオレンジの足が目立ちます。残念ながら子育てはしていないようです。

夏と冬に見られる鳥 夏にはツバメ、冬に葉が落ちると観察しやすく、ジョウビタキ、ルリビタキ、アオジ、シメ、シロハラ、アカハラなどが見られることがあります。

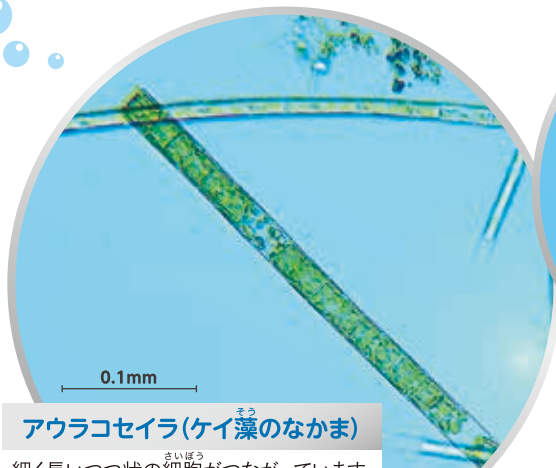
そのほかに見られる鳥 ハシブトガラス、ハシボソガラス、キジバト、スズメは年中見られます。水鳥はウ、コサギ、アオサギなどが時々訪れます。

狩場の丘池の中のミクロの世界



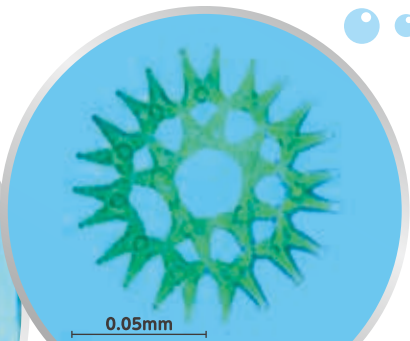
狩場の丘の池には、目には見えにくいけれどたくさんのプランクトンがすんでいます。これらは食べたり食べられたりして池の生態系をささえています。

ケイ藻や緑藻は、ワカメやコンブと同じような藻のなかまです。ケンミジンコやワムシ・小魚・エビなどが食べます。ケンミジンコは、エビやカニのなかまで、小魚・水生昆虫などに食べられます。顕微鏡でミクロの世界をのぞいてみましょう。



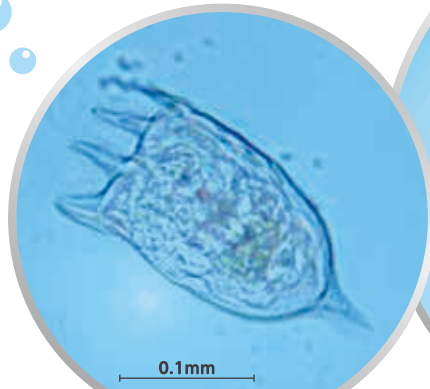
アウラコセイラ(ケイ藻のなかま)

細く長い棒状の細胞がつながっています。殻はケイ酸質で固くできています。



クンショウモ(緑藻のなかま)

小さな細胞がたくさん集まって、くんしょうみみたいな形になっています。



ワムシのなかま

つぼのような形をしています。小さなプランクトンを食べます。



ケンミジンコのなかま

長い触覚を2本もっていて、水の中を泳いで小さなプランクトンを食べます。はねるように泳ぎます。



狩場の丘のユーカリ



ユーカリはオーストラリア原産のフトモモ科の樹木です。オーストラリアの多様な環境にあわせ進化し、500以上の種類があります。資源植物として有用なユーカリは世界中に広まり、日本にも明治以降導入されました。狩場の丘にも何本かの大木が見られます。

児童遊園地前のバス停近くの森の中にあるユーカリは、すべすべしたうす茶色の幹で、樹皮がはがれおちる種類のユーカリです。11月から1月にかけて花を咲かせ、頭上はるか上の梢に白い花が見られます。運が良ければ下におちている花を園路上に見ることができるかもしれません。探してみましょう。花の時期には木の下にたくさんのツボミのふたが落ちています。青銅色のふたも、ユーカリの匂いがします。

花が終わると実をつけて、5月になるとボタンのような実が落ちます。幹は同じように見えるのですが種類が違うのでしょうか、木によって実の大きさが違います。見つけられたら比べてみましょう。

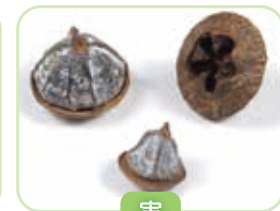
ハーブガーデンの階段をおりた左側には、違う種類のユーカリの木があります。こちらの幹はコルク質です。ユーカリは木が若い時には枝につく葉は丸く、成長してくると細長い葉が付きます。この木ではその形が違う2つの葉が観察できます。幹の下の枝の葉は丸く、上の葉は細長いブーメラン型です。見てみましょう。



丸い葉



細長い葉



実



横浜の森のなりたち

日本に現存する多くの「森」は、長い間の人々の暮らしと密接に関係し、薪炭林として利用されてきました。横浜市内の森も例外ではありません。伐採した森の木を炭燃料や道具として利用し、森の木や竹を日常的に利用することで、人の生活と森の更新のサイクルが調和し、森の健康が保たれていました。やがてプラスチックなど石油製品が台頭し、日常生活中で森の木を使うことが減り、森の更新サイクルが崩れてしまいました。そのため、健康な森を保つためには、定期的に森の手入れを行うことが大事な課題となっています。



イラスト：中村 明世

狩場の丘のおすすめ草花

春

タチツボスミレ



科名 スミレ科

3月から4月に、明るく開けた草むらに群れて咲く紫色のスミレで、園内のあちこちで見られます。交流スペースの前の石畳にヒメスミレ、日陰の園路では4月末から白いツボスミレが見られます。

キュウリグサ



科名 ムラサキ科

とても小さな花ですが、よく見るとワスレナグサにそっくりです。葉をもむとキュウリのおいがします。通路わきの空き地に群生します。同じ仲間のハナイバナも同じような場所で見られます。

キラソウ



科名 シソ科

別名ジゴクノカマノフタ。病気を治して地獄の薬にフタをするからだそうです。葉草なので、地面にへばりつくように紫色の花を咲かせます。日当たりのよい園路や、梅園の通路わきにたくさん咲いています。

ニワゼキショウ



科名 アヤメ科

5月になって日差しが強くなる頃、芝生広場などの日当たりの良いところに、青紫から赤紫の花を芝生の中に咲かせます。背が高く花が小さく、オオニワゼキショウも混じります。



ネジバナ

科名 ラン科

6月になるとニワゼキショウに交じってピンクの花をらせん状に咲かせます。芝生広場の日当たりのよいところでよく見られます。花は小さいけれど立派なランの花の形をしています。



オカトラノオ

科名 サクラソウ科

大形のサクラソウ科の植物です。動物の尻尾のように長い花穂が垂れさがります。椿園の上の斜面と、児童遊園地前のバス停の入口のコナラの下に群落があります。



ヤマユリ

科名 ユリ科

アズマネザサを刈った雑木林の林床にたくさん出てきました。まだ小さい株が多く、花数は少なめです。梅園などに大きな株が見られます。こども植物園にもたくさん開花します。



ツリガネニンジン

科名 キキョウ科

紫色のツリガネのような花を咲かせます。椿園の上の斜面などで見られます。珍しい白花もあります。探してみましょ。昔はトトキといって山菜のひとつでした。



ツルボ

科名 キジカクシ科

秋の初め日の入りが早くなり始めると、芝生広場の園路沿いや試験圃場の崖の上の草地に紫がかつたうすいピンク色の花を、咲かせます。花が終わるとうす茶色の実が茎につきます。



アキノタムラソウ

科名 シソ科

秋と名がついていますが、7月頃から花が見られます。遊具広場の横の雑木林の林床に群落があります。花は小さくて目立ちませんが、サルビアの仲間で見るときれいな紫色です。



シラヤマギク

科名 キク科

園内の雑木林の通路わきに、ぼつぼつと花を咲かせる白い菊です。背が高く、1メートルくらいあり、花びらの数がすくなく、花数も多くないので、咲いていてもあまりめだちません。



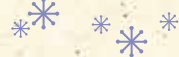
ノコンギク

科名 キク科

うす紫色の背が低いきれいなキクです。花数が多いので目立ちます。サクラ林の横の園路などで見られます。梅園前に咲くカントウヨメナとは、冠毛の長さで見分けます。



冬



狩場の丘のおすすめ樹木

春



スイセン

科名 ヒガンバナ科

梅園の林床にたくさん植栽されています。新年から梅の花が咲く頃まで楽しめます。古くから日本に入ってきた外来種で、良い香りがしますが球根には毒があります。



ツワブキ

科名 キク科

葉に光沢のあるフキです。秋の終わりから冬にかけて、園内のあちこちで大きな黄色い花を咲かせます。海岸植物ですが、昔から園芸植物として親しまれ、キャラブキはツワブキの茎を煮て作ります。



アセビ

科名 ツツジ科

アセビの花は秋にツボミをつけ、3月になるとスズランに似た花を咲かせます。花は穂のように垂れ下がります。漢字では『馬酔木』と書き、有毒です。本館や駐車場の周りに植栽されています。



コブシ

科名 モクレン科

サクラの咲く前に白い花を咲かせます。園内には何本も大木がありますが、駐車場から芝生広場への通路の2本のコブシは、広げた梢いっぱいに花をつけます。秋に赤い果実の集合果が実ります。



オオイヌノフグリ

科名 オオバコ科

2月になり日差しが春に近づくと、草地や日当たりのよい園路脇に青紫の花をカーペット状に咲かせます。日本原産のイヌノフグリより大きいのでオオイヌノフグリです。



ホトケノザ

科名 シソ科

オオイヌノフグリと同じころ、こちらの日当たりのよい園路脇などに濃いピンクの花を群生させます。春の七草のホトケノザは、キク科の別の植物です。こちらのホトケノザは食用にはしません。



ハナモモ

科名 バラ科

イングリッシュガーデン前にあるハナモモは、うすいピンクからこいピンクまで花色の違う花を一斉に咲かせます。



ハナミズキ

科名 ミズキ科

駐車場の周りやブドウ園の上の園路沿いに、白とピンクのハナミズキがあります。春の花時、秋の紅葉、そして葉が落ちた後の赤い実も楽しめます。日本のヤマボウシの仲間です。北米原産です。



ブラシノキ

科名 フトモモ科

芝生広場で初夏、ブラシのかたちの真っ赤な花を咲かせます。故郷はユーカリと同じオーストラリアです。オーストラリアでは乾燥した場所の灌木林で多く見られます。



イタリアニンジンボク

科名 シノ科

別名はセイヨウニンジンボク。芝生広場の横やブドウ園の上の園路沿いに涼しげな白やうす紫の花を咲かせます。日本の沿岸砂地に自生するハマゴウの仲間です。



ピラカンサ

科名 バラ科

ピラカンサは、垣根などにも使われる低木です。初夏に咲いた真っ白な花が、秋には真っ赤な実になります。オレンジ色になる種類もあります。完全に熟すまでは有害です。



トウカエデ

科名 ムクロジ科

児童遊園地のお花畑から小広場に向かう小道沿いに中国原産のトウカエデ、フウ、モミジバフウの大木が何本かあり、秋には黄色く色づきます。いろいろな形の黄色い落ち葉もきれいです。



ナツツバキ

科名 ツバキ科

本館入口の通路わきにあります。すべすべした褐色の幹で、初夏に椿に似た小さな白い花が咲きます。隣にある同属のヒメシャラの花はさらに小さく、秋におちる実も大きさで見分けられます。



スイフヨウ

科名 アオイ科

栽培温室の前の花だんに植えられています。白い花がだんだん赤くなるのを酔った様子に見立てて『酔芙蓉』と名がつけました。



イロハモミジ

科名 ムクロジ科

イロハモミジは関東以西の太平洋側、標高の低い山地に普通に見られるモミジです。狩場の丘では秋の終わりに紅葉します。実習展示場の園路脇など、園内では何本か植栽されています。



ハゼノキ

科名 ウルシ科

富士見広場の入り口横やナシ園の上の通路に大木があります。秋も早いうちから真っ赤に色づきます。ウルシの仲間なのでかぶれることがあります。それほどひどくはなりません。



マテバシイ

科名 ブナ科

9月初めから、大きな円錐形のドングリを落としま
す。マテバシイのドングリは渋みが少なく、渋抜き
をしなくても食べられます。九州など暖かい国に
自生し、横浜では公園の植栽樹として見られます。



コナラ

科名 ブナ科

里山を代表する薪炭林の主役の木です。ドングリ
はマテバシイに似ますが、渋抜きしないと食べら
れません。園内の雑木林で見られます。夏にはカ
ブトムシやクワガタが樹液を求めて集まります。



ヒイラギナンテン

科名 メギ科

環境活動支援センター本館の周りの数か所に
植えられています。芝生広場の通路わきの数本
は、特に花序が長くてきれいです。メジロがよく
蜜を吸いに集まります。



ウメ

科名 バラ科

梅園をはじめとして園内各所に植えられていま
す。2月の初めころから3月にかけて徐々に白か
らうす紅、紅色までの花が開花します。梅の蜜
もメジロやシジュウカラは大好物です。



クヌギ

科名 ブナ科

コナラと並び、里山を代表する薪炭林の主役の
木です。ドングリは丸くて大きく、殻斗はカール
した角がたくさんついたお碗のようです。クヌギ
の樹液にも多くの昆虫が集まります。



スダジイ

科名 ブナ科

横浜の林は、自然のままだとスダジイなどの照葉樹
林の森になります。10月に小さな茶色いどんが
ったドングリが落ちます。炒って食べるとおいしいで
す。駐車場の周りにたくさん植栽されています。



マンサク

科名 マンサク科

春一番に黄色い花を咲かせます。栽培温室前の
通路わきで見られます。同じ仲間のシナマンサ
クと混植されています。シナマンサクは花の時期
にも枯葉がのこることがあり、見分けられます。



オカメザクラ

科名 バラ科

園内には桜がたくさん植栽されていますが、そ
の中でも春早く咲き始めます。同じころ、タイ
リョウザクラやヨウコウも咲き始めます。サクラ
マップもあわせてご覧ください。



木へんに春と書いて椿

ツバキ

椿は冬に花が咲きます。風が冷たい時期に、深紅、白、赤、ピンク色などの花を見ると、心が温まります。花は、人々の目を楽しませてくれるだけでなく、エサが少なくなる冬に、鳥たちへ花の蜜も提供しています。

園芸種のツバキは古くから材・灰・油・花・葉を有用な資源として利用され、江戸時代には、すでに地域ごとに多くの品種がつくられていました。椿の花は、色の違いだけでなく、斑入り、花の形、花びらの数など多種多様なものが存在し、その種類は何百種以上にもなります。冬の椿園を散歩して見比べてみよう。

分類 ツバキ科 ツバキ属 常緑花木

原産地 日本/中国/東南アジア

花言葉 紅色「気取らない優美さ」
白色「申し分のない魅力」

薬用 種子の油は、ツバキ油として、軟膏基剤や毛髪油などに使われています。

環境活動支援センター・椿園



小さな植物 スミレについて

春先に咲くスミレ。スミレの種子はアリによって散布されています。スミレの種子にはエライオソームと呼ばれる脂肪酸、アミノ酸、糖からなる化学物質がついています。アリはこの物質に引き寄せられ、巣へと運びます。その後、エライオソームだけ切り離され食用にし、種子の部分は食べられずにアリの巣内外のごみ捨て場に運ばれます。

種子は高温・乾燥に弱いので、種子がアリの巣内のごみ捨て場や、落ち葉の下などに運ばれることで、発芽に必要な温度・湿度が保たれるメリットを受けています。また、山火事においても地中では温度が上がりにくいなど、エライオソームを渡す見返りにさまざまな恩恵を受けています。



アリ散布によるメリット・デメリット

メリット

- 種子の温度・湿度が一定に保たれます。
- 火事・捕食を避けられます。
- 親からそこそこはなれた場所に散布されるが、そうは言っても、アリなので、遠くても100m程度。

デメリット

- エライオソームをつくるのに結構なエネルギーを消費します。
- アリによってはエライオソームだけを回収して、種子はぼい捨てします。
- 同種もしくは他種の種が集中した場合、発芽後の競争が激化します。

スミレの種類は、世界中に数百種あります。色は主にむらさき色と白色です。下の写真は、園内で見られるスミレです。

スミレは、まだ風は冷たい時期に、かわいらしい花が咲き、春の訪れをいち早く感じさせてくれます。3月上旬から4月下旬ごろに園内を散歩するときは、足元をちょっと気にして、スミレを探してみてください。



ヒメスミレ



タチツボスミレ



ツボスミレ



執筆／ウェルカムセンター：梅田 孝(昆虫)・國井 和子(鳥/植物)・高山 尚子(プランクトン)、
環境活動支援センター

写真／ウェルカムセンター：梅田 孝(昆虫)・高山 尚子(プランクトン)、
環境活動支援センター

発行／環境創造局みどりアップ推進課



平成30年3月発行